

単身者（シングル）の団体・グループに関する年表 2018年8月作成（22年12月補弼）

年	団体・グループの動き	吉田の行動	社会の動き
1945年 (昭20)			第2次世界大戦終結
1967年 (昭42)	「独身婦人連盟」（独婦連）結成 (2002年解散)		
1980年 (昭55)	「ひとり歩きの会」発足（11月第1 回例会開催）		
1983年 (昭58)			落合恵子『シングルガール』（集英社）
1984年 (昭59)	「東京ひとり歩きの会」設立？		
1986年 (昭61)			海老坂武『シングル・ライフー女と男の解放学』（中央公論社）
1987年 (昭62)			吉廣紀代子『非婚時代』（朝日新聞社） 青木やよひ『シングルカルチャー ポスト家族のゆくえ』（有斐閣）
1988年 (昭63)	(月)「しんぐる巣」創刊号発行		
1989年 (平元)	(7月)「しんぐる巣」No.2発行		
1990年 (平2)	(7月)「確信犯？シングルの会」結成。「シングلز・ネット」第1号発行(10月) 「シングلز・ネット親睦会・東京」（「東京シングلزネット」）誕生（※注）（毎月例会を開催） 「ひとりで生きるために、単身者の生活権を検証する会（単身けん）」設立		
1991年 (平3)	(2月)「シングلزネット読者交流会」開催（東京／中野、村山、月江、大越ほか&吉田） このころ「TSねっと」創刊（「シングلز・ネット東京読者会」）	(2月)「単身けん」設立記念シンポジウムにパネラーの1人として参加 (7月)第5回シングلز・ネット親睦会（東京／実行委員長：糸谷）参加	
1992年 (平4)	(2月)「確信犯？シングルの会」海老坂武講演会開催	(1月)「シングلز・ネット東京読者会」に参加 (7月)「単身けん」シンポジウム開催？	
1993年 (平5)		(3月)「単身けん」例会&世話人会に出席	松原惇子『ひとり家族』（文藝春秋）

		(5月)「单身けん」総会 &交流会に参加	
1994年 (平6)			松原惇子『気がつけばシングル』(講談社)
			90年代後半に「パラサイト・シングル」(山田昌弘)が流行語になる
1998年 (平10)	(5月)「SSS(スリーエス)ネットワーク」(代表:松原惇子)発足。 2001年にNPO法人に。 (12月)「单身けん・関西」準備会開催		
1999年 (平11)	(2月)石川由紀さんを講師に「单身けん・関西」開催(以降、4月、6月、12月に例会開催)	(10月)「单身けん」例会に参加	
2000年 (平12)	(2月、4月、6月、8月、10月に「関西单身けん」例会開催)		
2001年 (平13)	(3月、5月、7月、9月、12月に「関西单身けん」例会開催)		
2002年 (平14)	(3月、6月、9月、12月に「関西单身けん」例会開催)(12月例会に料理3品を持ち込み、以降、年末恒例になる)		
2003年 (平15)	(3月、6月、9月、11月に「関西单身けん」例会開催)		
2004年 (平16)	(3月(NALC会長高畑敬一氏を講師に公開講座「地域で支え合いの仕組みをつくる」開催。参加者15人)、6月、9月、12月に例会開催)以降、2011年まで毎年4回例会開催		
2005年 (平17)			女性の社会進出を背景に、04~05年ごろ「おひとりさま」がブームに 「おひとりさま」が流行語大賞候補に
2012年 (平24)	「関西单身けん」、この年から例会を年4回から年6回(奇数月の第2日曜)に増やす		
2015年 (平27)			生涯未婚率(※)が男性で23.4%、女性で14.1%に
2020年 (令2)			2000年代に入って「ソロ活」という言葉が使われはじめ、2010年代後半から「ソロキャンプ」が流行しはじめ、2020年には流行語大賞に選ばれる(Wikipedia)

※生涯未婚率(生涯独身率):国勢調査で、おおむね50歳までに未婚だった人の割合

(※注)「確信犯?シングルの会・東京」という会名も一時使われていた

©2018 吉田清彦